

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月23日

事業所名 支援センターパレット

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	6	1	活動内容により、ホール訓練室を使い分けている	今後は、児童館や学習室などを活用し、適切な環境を整えていく
	2 職員の配置数は適切である	1	4	4	職員が増える前にスキルアップ行う。	職員を増やす事を目標にするが、職員のスキルアップも必要になってくる。個別対応も出来るだけ工夫していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	3	トイレの環境改善を行った	訓練室とホールのみ段差があるが、構造上改善は難しいため、移動方法や介護方法を適切に行う
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	4	0	会議の中で振り返りしている	会議の中で伝えるだけでは不十分なため、職員一人ひとりのマネージメントが必要である
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	3	1	今後は実施していく	日頃から、意見を言いやすいように意見箱の活動などを行うため、意見の言いやすい環境を作っていく、また意見をまとめた内容を会議で共有していく
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	5	2		ホームページに公表している
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	3	学校や関係者から意見を聞いて、改善に努めている	月に1回、社労士のコンサルタントを活用し、人材育成や業務改善に努める予定である
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	0	研修は定期的に行っている	伝達研修が不十分のため、伝達研修を増やしていきたい 研修は増えてきている為継続していきたい。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	0	相談受付の際、必ず面談をしてアセスメントをとり、そのニーズから計画を作成している	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	5	0		現在、ツールはあるが特性によって種類を変えたほうがいいのか、検討していく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	0	ミーティングにより、一カ月の予定表を作成している	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	0	職員一人ひとり、また、児童からもやりたい活動を出してもらっている	児童からの活動要望箱が人気で、今後も続けていき、自発的に取り組めるよう工夫していく
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	4	0	長期休み等を意識した、活動設定をしている	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	3	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	2	0		ミーティングは毎日行っていて、支援前に日々の業務確認はしているが、細かい内容は時間が取れていないので、支援会議等を回数を増やし、情報共有していく必要がある。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	4	0	業務終了後は毎日ミーティングして振り返りをしており、リアルタイムでラインなども活用し情報共有している	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	2	0		日々の記録は、個別支援計画に沿って記録をしており、振り返りについては支援会議等を活用して行っている
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	モニタリングは各担当支援者で行い、児発管と相談しながら計画書を作成している	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	2	0		ガイドラインの読み合わせをし、活動内容も色々取り入れているが、ガイドラインの周知が不十分のところもあるので、今後は読み合わせ、検証をして工夫を凝らしていく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	0	管理者、児発管が参加している	時間がある時には、同行で現場職員も参加させていきたいと考えている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	1	0	学校行事の時には、連絡帳やお迎えの時にその都度確認して、情報をもらっている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	8	0		現在、医療的ケア児の受け入れがなく、もし希望者があつた時には対応できるようにしなくてはならない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	3	0	就学前の会議にて、情報共有している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	1	0		現在、小学生を中心に受け入れているため、学校卒業後の移行については対応はないが、今後、学校卒業の児童がいた場合は、対応できるようにしていく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4	2	定期的に専門職の方を外務研修の講師としてお招きし、研修を行っている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	4	0	児童館へ行ったり、地域の学童クラブとの交流会など企画して交流を図っている	交流ははかっているが、児童からはもっとやりたいとの声があり、今後は回数を増やしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	5	2	地域の課題を一緒に考え検討する子ども部会に管理者と児発管が参加している	子ども部会に参加しているが、職員への周知が不十分で理解していない方がいる。今後は、参加者が自分たち動きを伝えていけるような機会を作っていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	1	0	連絡帳や送迎時、必要であれば電話をして日々連携を図っている	支援中の連絡帳記入にかなり時間をかけていて、日々大変であるが、連携や申し送りの観点から今後も拘ってやっていきたい
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	4	2	ゆんたく余の中で研修なども企画したり、必要な方には面談を行い、保護者への対応力向上に努めている	ペアトレ、ペアプロなどは今後取り入れていきたいので、研修などに参加していく必要がある
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	2	0	契約時に管理者、児発管で説明を行っている。また、追加で徴収する料金については、保護者会などで事前に説明している	契約だけでなく質問された時にその都度説明している
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	3	1	希望があれば、その都度面談などを行い、相談にのっている	放課後等デイサービスでは保護者支援も支援の内なので、職員一人一人が対応できるように研修などを行っていく必要がある
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	2	0	2か月に1回、保護者会を行っている。その中で研修や事業所見学なども行っている	保護者会は行っているが、時間帯の課題から参加者が少なく、時間帯の工夫を今後ははしていく必要がある
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応している	9	1	0	苦情、要望記録を作り、会議の時に共有をしている	保護者と個別対応して解決している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0	月に1回だよりを作成し、保護者へ配布している。また、外出支援などは、詳細の記入した手紙などを配布し、連絡体制を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	11	0	0	個人情報同意書を1年に1回にとり、同意の確認をしている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	1	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	6	0	福祉まつりに参加し、事業所を地域発信している	福祉まつりには参加しているが、地域住民を招待する行事などは行っておらず、今後は企画していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	4	0		マニュアルは職員へは周知しているが、保護者へは周知したことがないので、今後、保護者会などで周知していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0		災害の避難周知や備え、訓練などは行っているが、職員のみ周知なので、今後、細かい内容を保護者会などで周知していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	0	1年に1回、県の虐待防止研修で配布された資料を使い、虐待防止研修を行って、理解を深めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	0	0	個別支援計画書に記載し保護者に説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	0	アレルギーのある児童には、医師の指示書を提出してもらい、職員全員へ周知徹底している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1	0	ヒヤリハットは、気づいた時にその都度記入してもらい、支援会議で振り返りを行い、対策を検討している	